

東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

平成17年度 年 報



(新住所) 〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

電話:0235-58-1730 FAX:0235-58-1731

ホームページ: <http://www.fureai-kokuyurin.jp> E-mail: t_syonai_f@rinya.maff.go.jp

この一年を振り返って

所長 川 村 一 憲

ふれあいセンター2年目を振り返ってみると、活動は着実に広がり参加者も増加していることは評価できるのではないか。一方、解決しなければならない事案も増えているという事実を忘れてはならないと感じています。

また、想定外の事案で事務所を移転しなければならなかったことは、誠に残念なことでした。

活動エリア毎にみると、朝日山地森林生態系保護地域では、巡視員が着実に増加し、活動も充実してきました。それに伴い、諸課題が見えるようになりました。

庄内海岸林では、支援活動に加え、当センターが企画する取組として、森林整備やクリーン作戦を行うことができました。

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊では、旧最上川スキー場跡地の自然再生に向けた取組をようやくスタートすることができました。

高館山自然休養林でも、森林整備やクリーン作戦を行いました。

これらの取組を通じ、森林環境保全ふれあいセンターという組織が地域に根付きつつあることは確かと感じています。そのことをより確実なものにするためには、十分に根を張って(スキルアップ)、幹を伸ばし枝葉を茂らせニーズという日差しや風を吸収(情報収集)し、ニーズに応えるように多様な成長(活動)をして、地域の役に立つようにならなければなりません。そう考えると、まだまだという思いです。

この一年の諸活動が来年度以降の活動の少しでも肥やしになればと思い、広報「朝日庄内ふれあいの風」をベースにエリアごとに取組をまとめました。年報とは言えないかもしれませんが、ご一読いただければ幸いです。

平成17年度朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動状況(概要)

活 動 事 項	取 組 内 容
(1)朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理	管理委員会(6/8) 溪流魚モニタリング調査(7/4～8)、(9/16～21) 森林植生モニタリング調査(9/16～21) 森林植生モニタリング追加予定箇所踏査(7/27,28) 合同パトロール(7/30,31) 巡視員会議(6/18、12/3) 標識の設置(7/4、8/25,28,30、9/9、10/13,17,24,31) スノーモービル実態調査(3/18,19、25,26)
(2)庄内海岸林の保全活動	森林ボランティア活動の支援 酒田都市公園等環境美化活動(6/25、9/24) 酒田第一中学校1年生砂防林ボランティア(7/1) 山形第四中学校2年生松林整備体験(7/6) 遊佐中学校3年生砂防林整備(9/14) 酒田工業高校1年生エコアクション(9/22) 砂防林を育てよう(11/20) 酒田中央高校3年生クロマツ林を守ろう(11/22) 遊佐町西山地区森林整備(12/4) 森林ボランティア活動 クロマツ植樹(4/14) 浜中クロマツ林整備活動(8/27) 美化活動(クリーンアップ作戦)(10/8) クロマツ林整備活動(11/12) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 (第1回:5/10、第2回:9/8、第3回:2/24) クロマツシンポジウム(11/19.)に後援、参加 酒田地区森林ボランティア関係団体連絡会議(5/17) 万里の松原交流施設完成式典(12/17) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/25) ボランティアリーダー養成研修(7/24、9/3、12/10)

<p>(3)高館山自然休養林 の保全活動</p>	<p>クリーン作戦支援(6/11) 森林整備ボランティア(刈出し作業)(7/9) 環境美化活動(9/23) ナラ枯れ被害見学及び防除処理体験(10/29) パトロール(4、3月)</p>
<p>(4)緑の回廊における モニタリング等</p>	<p>スキー場跡地植生調査等(8/29、10/4,13,19)) 土湯の森自然再生検討会(3/7) 列状間伐箇所調査(11/15)</p>
<p>(5)やまがた公益の森 構想への協力</p>	<p>庄内公益の森支援センター公益の森づくり部会に参加</p>
<p>(6)森林倶楽部を支援</p>	<p>権現山の大カツラと山刀伐峠探訪(5/28) 中央蔵王をまるごと堪能(10/1)</p>
<p>(7)各種イベント等</p>	<p>山開き(朝日村:5/29、朝日町:6/19、月山:7/1、飯豊山:7/3) やまがた森の感謝祭(6/4) マタギサミットinあさひ(6/25,26) 月山地区山岳遭難対策協議会(6/20) 朝日村山岳遭難救助対策委員会(7/5) インターンシップ受け入れ(8/24~30)) インドネシア視察団受け入れ(9/1,2) 朝日小学校4年生総合学習を支援(9/7,15) ウッドフェスティバル2005(10/1,2) つるおか農林水産まつり(10/15,16) 猛禽類に配慮した森林施業現地検討会(10/18) 山形県森林インストラクター協議会講演会(11/3) 月山ダム水源地域ビジョン検討部会 (5/31、7/12、9/15、12/20、2/7,21) 置賜森づくりフォーラム(2/11,12) 木の文化シンポジウム(2/24) 不法投棄防止に関する講習会(2/27) 国有林野所在市町村長有志協議会(11/21) 広報誌の発行(第3号:7/27、第4号:11/30、第5号:3/24)</p>

1 朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理

第1回管理委員会を開催 - 今年度の実施計画などを審議 -



今年度最初の管理委員会が、6月8日(水)に山形市で開催され、今年度の実施計画について、森林生態系保護地域における歩道のあり方についてなどの審議が行われました。

今年度の実施計画

現在二箇所で行っている森林植生モニタリング調査の調査項目を見直すこと。新たに調査箇所を一箇所追加すること。

渓流魚モニタリング調査は前年同様とすること。また、過去の放流事業により、イワナの遺伝子交雑の可能性が懸念されるので、実態調査が必要との意見を受け、事務局として今後検討すること。

ボランティア巡視については、緊急連絡先や連絡事項等を明記した「巡視活動マニュアル」を提案し了承。

保全利用地区と保全地区の区域を示す標識の作成と設置については、前回の委員会での意見を踏まえ、一部設置箇所を変更して提案し了承。

森林生態系保護地域の歩道のあり方

具体的な議論の前に森林管理局としての基本的な考え方を構築するように求められ、次回までに整理すること。

巡視員会議を開催

- 巡視活動マニュアルなど意見交換 -

夏山シーズンの開始に当たり、巡視員会議を6月18日(土)に朝日村で開催しました。

会議は、巡視員:28名、局署等:11名が出席し、最初に、今年新しく加わった巡視員に委嘱状を交付し、今年度の活動方針等について提案して意見交換を行いました。

今年度の巡視員の登録状況は、東北局:65名、関東局:6名で合わせて71名となり、前年度から2名の増加となっています。

会議での意見の概要は次のとおり。

巡視活動マニュアル

- ・ 山菜採り入山者への指導の徹底。
- ・ ルート表示テープは天然素材とすべき。
- ・ 水溶性ティッシュペーパーを使用すべき。
- ・ 猛禽類生息環境への配慮を検討すべきなど。

標識の設置

- ・ 雪対策として秋に回収してはどうか。
- ・ 設置に協力するなど。

合同パトロール

- ・ 色々なコースが可能ではないか。
- ・ 日程は事務局に任せるなど。

巡視情報マップ

- ・ アライグマの生息情報も載せるべきなど。

ボランティア保険

- ・ 残雪上での怪我は対象になるのかなど。



溪流魚モニタリング調査

今年度1回目の溪流魚モニタリング調査が、7月4日(月)～8日(金)に行われました。

積雪を考慮し前年度よりも1ヵ月程遅らせましたが、それでも水量が多いために捕獲作業は難航しました(雨で写真も撮れませんでした)。

2回目の調査は秋(9月頃)に予定しています。

合同パトロールを実施

7月30日(土)と31日(日)、巡視員と国有林職員との合同パトロールを昨年に引き続き実施しました。

今年は、溪流を加えた4コース(泡滝～大鳥池、古寺鉱泉～大朝日岳、針生平～平岩山・大朝日岳、朝日俣沢)を巡視員19名、国有林職員13名の総勢42名で、登山者へのマナーガイド配布、ゴミの回収、植物の盗掘の有無、登山道の状況把握などを中心にパトロールを行いました。

また、針生平～大朝日岳コースは1泊2日、その他は日帰りで行いました。



(大鳥池コース:マナーガイド配布) (古寺コース:避難小屋前で集合写真)



(針生平コース:道標の補修) (朝日俣沢コース:奥の魚止めの滝)

どのコースも、ゴミは少なく、植物の盗掘もなく、登山道の整備状況も大旨良好でしたが、大鳥コースでは、ショートカット箇所が、針生平コースでは注意を要する箇所などが報告されました。また、朝日俣沢(禁漁)への入渓者は見られませんでした。

森林植生モニタリング追加 予定カ所踏査

管理委員会での意見を踏まえ、モニタリング調査カ所を追加するための現地踏査を7月27、28日に西川町の大井沢で実施しました。踏査には、管理委員会から浅沼座長、佐藤征男委員、長南委員が参加し、局・署・ふれあいセンター職員と2カ所の候補地で、山菜の生育状況などを確認しました。



(日暮沢での踏査状況)



(大井沢での踏査状況)

モニタリング調査 行われる

- 森林植生、溪流魚 -

入林による影響について、山菜の採取、溪流釣りの二つの行為の影響を評価するため平成15年度から5年間の調査を行って



(溪流魚捕獲状況)

います(委託調査)。9月に森林植生と溪流魚(2回目)の調査を行いました。

《朝日山地の風景》



(大朝日岳山頂から祝瓶山方面)

標 識 設 置

- 巡視員、インターンシップが協力 -

保全利用地区と保存地区であることを現地に明示するために、主要な歩道などに標識を設置しました。

設置には、巡視員や森林管理署の協力を得るとともに、インターンシップの信州大学の学生2名も協力して行



(標識設置)

い、今シーズンは23ヵ所設置しました。

巡視員会議(秋季)開催

12月3日、鶴岡市下名川で、夏山シーズン終了に伴う巡視結果の集約と意見交換を行い、今後の取組に役立てるために巡視員会議(秋季)を開催しました。



(会議の様子)

会議には、巡視員が19名、管理委員会の浅沼座長らが出席して行いました。

高野指導普及課長の挨拶に続いて、報告事項として、巡視員の登録状況については追加登録があり、全体で73名になったこと、標識の設置状況については、巡視員や森林管理署の協力により23ヶ所に設置したこと、合同パトロールの結果報告などの報告を行いました。

続いて、巡視員から提出された巡視結果報告を「マナー問題」、「歩道整備」、「保全管理」などにまとめた資料の説明があり、その後、意見交換を行いました。

巡視員からは、歩道のショートカット利用、ゴミの放置、標識の設置、スノーモービル乗り入れなどに関する意見が出され、ショートカット利用は融雪後に現地調査を、スノーモービル乗り入れは環境省等と調整し実態調査を行うことになりました。

スノーモービル実態調査

- 生態系保護地域への乗り入れ -

12月に開催した朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議において、保護地域(国立公園)内におけるスノーモービルの乗り入れが、動植物等の生息環境等に与える影響が懸念されるとの指摘がありました。その後、環境省等との合同実態調査を行うことで調整を進め、3月18,19日に実施しました。

調査には、環境省羽黒保護官事務所、山形県、関係森林管理署、巡視員、当センターから、18日:7名、19日:6名が参加し、乗り入れの状況や騒音などを確認しました。

なお、調査は、25,26日にも行いました。



(スノーモービル走行エリア)



(スノーモービルの乗り入れ状況を確認中)

《朝日山地のいきもの》



(カモシカ)

2 庄内海岸林の保全活動

ボランティア植樹

- 酒田聾学校の子供たちとともに -

庄内海岸林では、松くい虫被害などにより、小規模の無立木地が目立つようになっています。このまま放置すると、飛砂や強風から市民生活

や田畑などの農地を守っているクロマツ林の持つ公益的機能の低下が懸念されるために、クロマツ林の保全と再生を図る観点



(大きく育つように植樹)

から地域と連携して酒田市にある新林国有林「万里の松原」内において、4月14日(木)、山形県



(植え付け完了)

立酒田聾学校、万里の松原に親しむ会、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、地元自治会など約100名が参加し、クロマツの植

樹を行いました。

聾学校の子供たちは、ボランティアのサポートを受けて、大きく育つように丁寧にクロマツの苗200本を植え、ネームプレートを付けました。



(全員で記念写真)

「万里の松原」環境美化活動を支援 - 雑草刈払い・ゴミ拾いなど -



(鎌の使い方を指導) 意に捨てたとみられるペットボトルなどを回収したり、雑草の刈払いなどが行われ、当センターからもスタッフとして参加しました。

酒田市の「万里の松原」一帯で、6月25日(土)、関係団体などから約160名が参加して、折れた枝や故



(子供たちも真剣)



(きれいになった松林をバックに全員で記念写真)

酒田一中森林整備を支援

- クロマツで下刈り・枝打ち -

酒田市立第一中学校は、美しいクロマツ林に囲まれており、この環境を守る具体的な活動を通して、地域の歴史を知るとともに、次世代に引き継ぐ意識の高揚を図るため、7月1日(金)に1年生75名が、学校の周囲のクロマツ林で下刈り・枝打ちの体験をしました。

当センターは県総合支庁や関係団体とともにスタッフとして参加し作業の指導を行いました。



(鋸の使い方を指導)

山形四中森林整備体験を支援 - クロマツ林で枝打ち -

山形市立山形第四中学校の総合学習と職場体験学習の一環として、7月6日(水)に2年生80名が酒田市の砂防林で森林整備を体験しました。



(初めての枝打ち体験)

当センターは県総合支庁や関係団体とともにスタッフとして参加し作業の指導を行いました。



(作業後、班毎に記念写真)

浜中地区で海岸林整備活動を実施

8月27日、酒田市浜中のクロマツ林の整備活動を浜中小学校6年生と父兄、自治会など約60名が参加して行いました。



(浜中小刈払い作業)

参加者は鎌などを使って、ニセアカシアや雑草、クロマツに巻き付いているつるの刈払いを行いました。

なお、今回の活動が浜中地区での最初のボランティアによる森林整備活動でした。

来年度以降についても継続していきたいと考えています。

インターシッポの2人も参加しました。



(参加者全員で記念写真)

遊佐中学校

「インターシッポinゆざ」を支援



(除伐作業)

9月14日、3年生189名が十里塚地区のクロマツ林で下草刈りや不要木の伐採などを行いました。



(日本海をバックにして)

酒田工業高校

「エコアクション」を支援

9月22日、小雨の中、1年生202名が、学校周囲のクロマツ林の下刈りとニセアカシアなどの不要木を伐採しました。



(下刈り作業)



(参加者全員で記念写真)

酒田都市公園等美化活動を支援 - 万里の松原 -

9月24日、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、万里の松原に親しむ会、地元自治会などから約110名が参加し、万里の松原一帯の下刈りやゴミ拾いを行いました。

《庄内海岸の花》



(ハマヒルガオ)

クリーンアップ作戦 を開催 - 日向川河口クロマツ林 -

10月8日、遊佐町の日向川河口左岸のクロマツ林のクリーンアップ作戦を昨年に引き続き開催しました。今年は、県の呼びかけで「クリーンアップ・ザ・庄内海岸」として、庄内海岸の5箇所で一斉に行う一つとして開催しました。

自治会やボランティア団体など60名が参加して、林内や砂草地に散乱している漂着ゴミなどを回収し、その量は可燃ゴミ:580kg、廃プラ等:1.6m³となりました。



(回収作業)

(集合写真)

日向川河口の海岸林整備活動を実施

11月12日、遊佐町日向川河口左岸のクロマツ林の保育活動を、自治会や万里の松原に親しむ会など34名が参加して行いました。

作業を行ったクロマツ林は、クズなどのつる類やニセアカシアなどが繁茂しており、参加者は鎌などで、クロマツに巻き付いているクズを取り除いたり、鋸でニセアカシアなどの不要木を伐るなどの作業を約2時間行いました。



(刈払い作業)

(作業後の林内)

砂防林を育てよう を支援 - 飯森山クロマツ林 -

11月20日、飯森山地区のクロマツ林の整備作業が小学生から大人まで合わせて約170名が参加して行われました。参加者は6班に分かれ、枝打ち、つる切り、下刈り、間伐作業を行いました。



(枝打ち作業)

この活動は、前日のクロマツシンポジウムとともに、市民に定着しつつあります。



(天候にも恵まれまた一日)

酒田中央高校 「クロマツ林を守ろう」を支援

11月22日、3年生184名が校舎東側の万里の松原で健全な針広混交林へ誘導するために、下刈り、つる切り、除伐などの作業を行いました。



(不要木の伐倒)

(下刈り)



(作業後の集合写真)

第2回クロマツシンポジウム - 後援、参加 -

11月19日、酒田市総合文化センターで、先人が公益の精神で植林した歴史的遺産である庄内海岸のクロマツ林を未来に引継ぐために、公益の森づくりの関係者が一堂に会し、海岸砂防林を守り育てる機運を住民運動として盛り上げるシンポジウムがNPO庄内海岸のクロマツ林をたてる会の主催で開催されました。

県内外から約300人が参加し、小中学校の事例発表や韓国の松林事情の紹介、海岸林学会韓国大会の報告などが行われました。



(海岸林学会報告)



(クロマツの歌合唱)

3 高館山自然休養林の 保全活動

高館山クリーン作戦に参加



高館山自然休養林保護管理協議会事業計画によるクリーン作戦が、6月11日(土)に実施され、当センターからも参加しました。

クリーン作戦は、協議会関係者など18名が参加し、遊歩道や園地などでゴミの回収を行いました。回収されたゴミは13袋となり、ほかに大量の不法投棄ゴミも発見されました。



高館山自然休養林で 稚樹の刈出し

7月9日(土)、鶴岡市にある高館山自然休養林において、松くい虫被害などにより上層木を欠いた箇所には生育しているクロマツ等の稚樹の成長を促すために、自然保護団体や地元関係者など17名により稚樹の刈出し作業を行いました。



高館山で環境美化活動を実施

9月23日、鶴岡市の高館山で、大山公園愛護会、尾浦の自然を守る会などから14名が参加し、環境美化活動を行いました。

高館山では、松くい虫被害木やナラ枯れ被害木の処理に用いられた被覆ビニールが目立つようになってきたために、景観と自然を守る観点からボランティアによる環境美化活動を行ったものです。



(回収作業)



(記念撮影)

《高館山の風景》



(山頂付近から鳥海山方面)

高館山でナラ枯れ被害見学会を開催



(林田助教授からの説明)

(防除作業体験)

10月29日に鶴岡市の高館山で、山形県内で急速に被害が拡大しているナラ枯れの被害状況の見学と説明、防除体験を地元自治会、自然保護団体、学生など15名が参加して行いました。

講師には高館山でナラ枯れ被害の調査研究に取り組んでいる山形大学林田助教授をお願いし、被害発生メカニズムや被害状況、防除方法・時期・効果などについて説明を受け、実際の防除作業を体験しました。

高館山自然休養林で パトロールを実施

鶴岡市の西方に位置する高館山は、里山には珍しく、ケヤキの大径木や奇形木、ブナ、分布上貴重な植物が自生するなど多くの植物を見ることができます。

特に融雪間もない早春期には、キクザキイチリンソウ、カタクリ、オオミスミソウなどの可憐な花々が手軽に見られるポイントとして地元はもとより県内外にも知られています

当センターでは、空き缶などのポイ捨てや植物の盗掘などを未然に防止するために、3月下旬から4月中旬にかけてパトロールを実施しています。



(カタクリ)



(オオミスミソウ)



(キクザキイチリンソウ)

4 緑の回廊における取組

土湯の森自然再生 検討会開催

- 旧最上川スキー場跡地の復元に向けて -

3月7日、戸沢村役場において、旧最上川スキー場跡地の自然再生に向けた検討会を開催しました。

旧最上川スキー場は、昭和55年に開設され営業してきましたが、利用者の減少などにより運営していた第三セクターが平成12年に破産し、リフトなど工作物が撤去されないままになっています。



(検討会の様子)

平成16年3月に設定された「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」の設定委員会でも、スキー場跡地を回廊内に含めるようにとの意見が多く出されたことから、回廊に含めることとし、将来的には広葉樹を主体とする天然林に誘導することで意見は一致したものの、その具体的な手法については今後の検討課題となっていました。

今回の検討会は、朝日庄内プロジェクトの一つとして取り組むものです。

また、名称はスキー場が土湯山の麓にあることから土湯の森自然再生としました。

最初に、亀下計画部長から、緑の回廊という機能を持たせながら森林を再生するためには、慎重な取扱いが必要と考えていますので、委員の皆様のご協力をお願いしたいとの挨拶がありました。

続いて、座長に選出された高橋山形大学教授

から、自然再生事業は今後ますます重要になりますので、今後の自然再生事業の指針になるようなものを委員の皆さんと事務局と一緒に頑張って築きあげていきたいと挨拶がありました。



(旧最上川スキー場)

事務局のふれあいセンター石田自然再生指導官から、スキー場跡地の現地概況や植生状況、緑の回廊設定の経緯・スキー場跡地に関する論議、事業スケジュールなどについて説明を行い、その後、フリーディスカッションを行いました。

委員からの意見は、「時間のオーダー」と「手法」に大別され、その概要は次のとおりです。

時間のオーダー

- ・時間のとらえ方には個人差がある。
- ・人が破壊したところを再生するには長い時間がかかる。
- ・広葉樹を再生するには時間のオーダーを長くとらえるべきなど。

手法

- ・人が大きく破壊したところは、手を加えて戻す必要がある。
- ・エリア分けしてはどうか。
- ・自然の回復力に若干手を貸す程度でよいのではないか。
- ・幅広い取組方法でいいのではないか。
- ・緑の回廊の設定趣旨からすると人の関与は余り大きくない方がいい。
- ・森林環境教育の場としても活用すべきなど。

これらの意見を踏まえ、事務局で今後の取組について検討するとともに、新年度には現地検討会を予定しています。

5 森林倶楽部を支援

第1回森林倶楽部

- 権現山の大カツラと山刀伐峠探訪 -

今年度1回目の森林倶楽部が好天に恵まれた5月28日(土)、山形県最上町で、秋田班:69名、山形班:16名、総勢85名と多くの参加により開催されました。



(東法田の大アカマツ)

一足早く最上町に到着した山形班は、幹周り7.7メートルと日本一を誇る「東法田の大アカマツ」を探訪後、

最上白川渓流公園で秋田班と合流し、開会式を行い、「権現山の大カツラ」を目指しました。

途中の歩道沿いに咲いているニリンソウなどの花々を楽しみながら、登るにつれて急になる道を一步一步進んでいくと、目の前に大カツラが現れ、疲れもどこへやら。



(権現山の大カツラ)

幹周り20メートルの日本一のカツラの前で記念撮



(大カツラの前で)

影をして、開会式を行った公園に戻り昼食。

その後、俳聖松尾芭蕉が辿った「山刀伐峠」

を散策し、赤倉温泉・大堀温泉で疲れを癒し、全員事故もなく、それぞれの帰路につきました。

第4回森林倶楽部

- 錦に彩られた中央蔵王をまるごと堪能 -

10月1日、今年度第4回森林倶楽部が会員36名が参加して実施されました。

刈田岳駐車場で開会式を行い、トレッキング開始、お釜を眺めながら熊野岳を目指し、熊野岳山頂から地蔵岳を経てザンゲ坂を下り昼食。午後からは蔵王中央高原を散策し、中央ロープウェイで蔵王温泉に下り、温泉浴で疲れを癒し、全員無事に帰路につきました。



(お釜をバックに記念撮影)

6 各種イベント等

朝日連峰夏山開き

朝日連峰夏山開きが、6月19日(日)鳥原山で行われました。当センターからは2名参加し、山形署、置賜署の皆さんと大江町のブナ峠口から鳥原山を目指しました。今年も天候にも恵まれ、多くの登山者にぎわいました。



(小朝日岳をバック大江山岳会の皆さんと)

《朝日山地の花》



(ヒメサユリ)

月山夏山開き

月山夏山開きが、7月1日(金)に月山山頂の月山神社で行われました。当センターからは2名参加し、山形署の皆さんと山頂を目指しました。頂上付近はあいにく雨で視界がよくありませんでしたが、ミヤマクロユリやエゾノツガザクラなどの花々を楽しむことができました。



(ミヤマクロユリ)



(エゾノツガザクラ)

「マタギサミットinあさひ」に参加

今年で16回目となるマタギサミットが朝日村で6月25(土)、26日(日)の両日、約140名が参加し開催され、当センターも後援・参加しました。

マタギサミットは、毎年、長野、新潟、山形、秋田、岩手などの狩猟関係者が中山間地域の生活文化の継承と



(熊谷達也氏の特別講演)

発展を目指して、問題解決に向けて模索する場として、平成2年に第1回が開催され、以来、毎年各地で開催されています。

初日には、特別講演会として、直木賞作家の熊谷達也氏、秋田市職員の小松武志氏、東北芸術工科大学の田口洋美教授がそれぞれ講演。

二日目には、「狩猟の新しい流れ：若者の声を聞く」をテーマに、尾瀬保護財団の橋本幸彦氏と西興部村猟区管理協会の伊吾田宏正氏からそれぞれの取組などの報告とパネルディスカッションが行われました。

朝日小4年生 プナ林を体感

9月7日、朝日小学校 4年生の総合学習の一環で、プナ林について調べるグループ(4名)が当センターを訪れ、プナ林の役割などについて説明を受け、15日には中台池周辺のプナ林で、林内を歩いて感触を確かめたり、プナの種子を拾ったりしました。



(プナの種子拾い)



(プナ林での説明)

インターンシップ受け入れ -信州大学から2名-

8月24日から30日の7日間、信州大学の学生2名が農林水産省就業体験実習を当センターで行いました。



(海岸林保育作業)



(植生調査)

朝日山地森林生態系保護地域では、大鳥池、小朝日岳方面の巡視活動と標識の設置を、庄内海岸林では、ボランティアによる保育作業を、緑の回廊では、スキー場跡地の植生調査を、高館山自然休養林では、巡視活動という広範なフィールドで多様な業務に取り組みました。

また、最終日には庄内海岸林の保育作業に参加した浜中小学校6年生との交流会が追加され、子供たちから「森林に興味を持った理由は」などの質問に答えていました。



(小学生と意見交換)

当センターでの一週間の業務体験を今後の大学生活に活かしてもらいたいものです。

インドネシアから研修員受け入れ

JICAの国際協力事業の一環として、インドネシア林業省の国立公園事務所長ら4名が8月30日から5日間の日程で山形森林管理署と当センターで研修を行いました。

当センターでは、研修後半の9月1、2日の2日間行われました。

最初に、大江町の大頭森山から朝日山地森林生態系保護地域を遠望し、事務所では業務の概要と森林生態系保護地域の管理手法について説明と意見交換を行いました。



(業務概要説明)



(プナ林での説明)

翌日は、月山プナ林施業公園を散策し、プナの種子や稚樹の発生状況、二次林の生育状況を見学しました。午後は、庄内海岸林に移動し、万里の松原に親しむ会の三沢会長から活動状況について説明を受け、意見交換と現地を探索しました。研修員からは会が発足した経緯や運営方法などの質問を受けました。



(三沢会長からの説明)



(万里の松原で記念写真)

《インドネシアのお面》



ウッドフェスティバル2005 つるおか農林水産まつりに出展

10月1,2日に酒田市で開催されたウッドフェスティバルと10月15,16日に開催された鶴岡農林水産まつりに出展し、活動内容などのパネル展示と山の銘水の試飲コーナーを設け、当センターのPRを行いました。



(山の銘水に外国人も感激)

(家族そろって)

山の銘水は、大朝日岳の金玉水と銀玉水、以東岳の碧玉水、鳥海山麓の胴腹の清水をセンター職員と巡視員が協力して取水(各26リットル)したもので、両方のイベントでおよそ800人が試飲しました。



(金玉水)



(銀玉水)



(碧玉水)



(胴腹の清水)

《朝日山地の風景》



(大鳥池)

猛禽類に配慮した森林施業 の現地検討会 に参加

10月18日、真室川町及位(のぞき)で、クマタカの生息環境と林業との関係について学ぶ現地検討会が、山形森林管理署最上支署の主催で行われました。

県や市町村、林業関係者など41名が参加し、希少猛禽類研究家の今井正氏を講師に、クマタカの生態、最上地方のクマタカの生息状況、林業との係わり等の説明と営巣木の観察を行いました。また、列状間伐の実施状況やテレメトリー調査についての説明がありました。



(営巣木の観察)

(列状間伐箇所)

事務所移転します

都合により一時移転していましたが、次のとおり当センターの事務所が決まり、4月3日に移転することになりました。

(住所)〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

(電話)0235-58-1730

(FAX) 0235-58-1731



鶴岡市朝日庁舎隣りの朝日産業振興センター1階です。